

漁況予報 いわし

第 1 3 7 号

2006年9～10月漁期
(2006年9月11日発行)

＝ 概 況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシの総水揚げ量は、7月が23トン、8月が約17トン（速報値）で、低調であった前年同期（7月：32トン、8月：78トン）をさらに下回りました。

佐島地区のまき網は、7月は漁獲がありませんでしたが、8月下旬に単発的な入網があり、約半年ぶりに合計でトン単位の漁獲となりました。

魚体は、小～中羽マイワシ(11～14cm台、0歳魚)が主体となりました。前年同様、この時期に1歳魚から0歳魚主体の漁獲に変化し、今年の0歳魚(2006年級群)は前年よりも資源水準が低いと見られていることから、漁獲量が減少したのと考えられます。

7月下旬から8月上旬に房総～三陸海域で、中羽マイワシ(1歳魚)のまとまった漁獲が見られましたが、相模湾ではこの1歳魚の居残りが少なかったため、漁獲につながりませんでした。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシの総水揚げ量は、7月が1,032トン、8月が559トン（速報値）で、昨年同期（7月：418トン、8月：626トン）を大きく上回り、高水準期であるここ数年の同期の中で最高値を記録しました。

水揚げ量が多かったのは相模湾東部～湘南地区であり、西湖地区は春先と比べて減少しました。

佐島地区のまき網は、断続的に餌イワシとして漁獲しました。

魚体は2ヶ月とも10cm台の小型成魚が主体で、8月下旬には5～9cmの未成魚も見られました。

【しらす】

6月までの相模湾のシラス漁は、相模湾東部が平年並み～やや不漁、湾奥部が不漁で推移しました。

7月に入ると湾全体で好漁となり、1ヶ統あたり100kgを超える日が多くなり、7月下旬から8月下旬までの1ヶ月間は、毎日200～300kg前後の安定した漁模様となりました。7～8月の漁獲量は、好漁であった昨年を上回り、最近5年間の中で最高値を記録しました。

しかし、8月下旬頃から漁は切れてきており、黒潮の流路にも変化が見られてきていることから、この先の漁模様は不安定となる考えられます。

まいわし

今漁期は、今年生まれの中羽マイワシが漁獲の主体となります。

3～6月のシラス漁におけるマシラス(マイワシの仔魚)の漁獲量から、今漁期の水揚げ量は、定置網を主体に約78トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となります。

7～8月の県内主要定置網における漁獲量から、今漁期の漁獲量は、約742トンと予測されます。

しらす

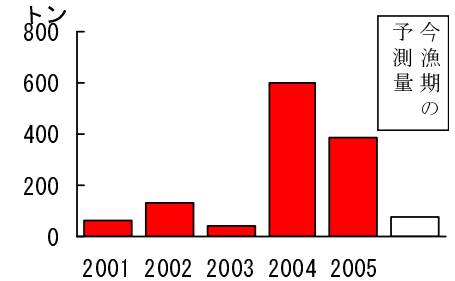
今漁期は、7～8月に相模湾内で生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となります。

当センターが実施した7、8月のカタクチイワシの卵分布調査結果から、今漁期の漁獲量は、約167トンと予測されます。

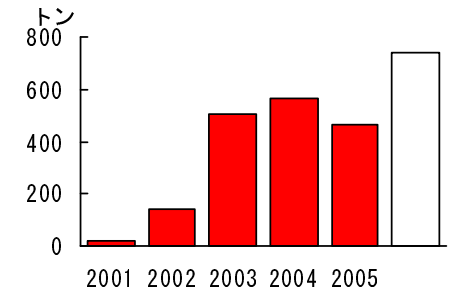
ただし、黒潮の湾内への波及が大きくなった場合、漁獲量が予測値を大きく下回ることが考えられます。

過去5年の9・10月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

マイワシ



カタクチイワシ



シラス

